

# JCL TEAM UKYO

## Tour of JAPAN Stage6 Fujisan

カルボーニ選手がクイーンステージを制覇！  
個人総合優勝に王手をかける！



日程 2024年5月24日

ステータス:UCI2.2

ステージ:TOJ Stage6 ロードレース 67.1km

チーム数 16チーム 85名出走 84名完走

JCL TEAM UKYOメンバー:アール、山本、石橋、小石、マルチェッリ、カルボーニ  
ポアロ監督 / ポルピGM

大会HP:<https://www.toj.co.jp/>

チームHP: <https://jcl-team-ukyo.jp/>

Images of Stage6: <https://img.gg/QNm2ve1>



JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ：株式会社ジャパンサイクルリーグ  
吉澤 苑実（広報）Mail : [media@jclleague.jp](mailto:media@jclleague.jp) TEL : 090-7511-7584  
管 洋介（広報）Mail : [yosukesuga0226@gmail.com](mailto:yosukesuga0226@gmail.com)

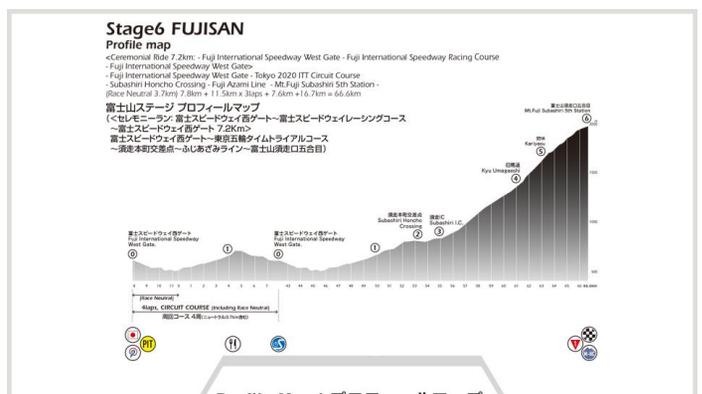




第6ステージは東京五輪タイムトライアルコースと使用した富士スピードウェイ近辺の周回を4周回した後、富士山の麓から須走登山口をゴールとする11.5kmの行程は平均勾配10% 最大斜度22%という非常にハードなレイアウトです。

クライム能力に秀でた選手がライバルと大きくタイムを引き離して優勝するこのコースでは総合成績が大きく変動する事が予想されました。JCL TEAM UKYOは個人総合リーダーのカルボーニ選手を中心に、過去2回このステージを優勝しているアール選手の総合ジャンプアップを狙う作戦をたてました。

前半の周回はうまくアタックするメンバーを選別して、プロトンのコントロールをする事でペースを安定させて最後の富士山に入り、エース同士の力勝負に持って行ける段取りでスタートラインに並びました。



# JCL TEAM UKYO



レースがスタートすると2周回目のスプリントポイントを狙ってSHIMANO寺田選手とKINAN カバナ選手の積極的な動きに同調した5名のエスケープグループが形成されます。

これを容認したJCL TEAM UKYOは、彼らが周回中に設置された2回のスプリントポイントを争う間、1分30秒までのタイムギャップを保ち石橋選手とマルチェッリ選手、そして寺田選手を逃がしたいSHIMANO勢と協力してコントロールします。



富士山麓を前に先行グループは、初日を制したASTANA ウォーカー選手のみとなります。するとプロトンからASTANA トネアッティ選手が単独で合流し入れ替わって先頭に立ちます。これを牽引追走するのは山本選手と小石選手。

ハードな登りに入るとプロトンはみるみるメンバーが絞られていきます。先頭のトネアッティ選手とのタイム差は1分、ゴールまで残り9kmを残して攻撃に出たのは本命のVICTOIRE ダイボール選手でした。ここに素早く反応したのがTERENGGANU クドゥス選手とリーダージャージを着るカルボーニ選手です。



JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ：株式会社ジャパンサイクルリーグ  
吉澤 苑実（広報）Mail : [media@jcleague.jp](mailto:media@jcleague.jp) TEL : 090-7511-7584  
管 洋介（広報）Mail : [yosukesuga0226@gmail.com](mailto:yosukesuga0226@gmail.com)



# JCL TEAM UKYO



ダイボール選手のクライム能力は圧倒的で、残り5kmでトネアツティ選手を抜き去ります。その後ろにカルボーニ選手は高い回転数を保ちながら勝機を狙います。そして最大勾配の区間ではダイボールが更にペースアップ。それでも崩れないクドウス選手とカルボーニ選手。ペースアップが緩んだ隙をついて今度はカルボーニ選手が鋭いスピードでアタックを仕掛けます。



残り2kmを渾身のペダリングでリードするカルボーニ選手は2名を少しずつ引き離すことに成功。そして、勾配が緩む残り1km地点で更にスピードを乗せるとその差は決定的なものとなります。



JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ：株式会社ジャパンサイクルリーグ  
吉澤 苑実（広報）Mail : [media@jcleague.jp](mailto:media@jcleague.jp) TEL : 090-7511-7584  
管 洋介（広報）Mail : [yosukesuga0226@gmail.com](mailto:yosukesuga0226@gmail.com)



# JCL TEAM UKYO



勝利を確信したカルボーニ選手は全身で喜びを表しゴールラインを切ります。2位のクドウス選手とは21秒、その他ライバルとは大きなタイム差を付けたことで自信の個人総合優勝の可能性を広げました。ゴールするとアシストを終えて戻ってきたチームメイトと抱擁し、感謝の気持ちを伝え合います。



最大の難所とされた第6ステージ  
JCL TEAM UKYOはチーム丸のコントロールでステージ優勝という最高の結果を残しました。



JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ：株式会社ジャパンサイクルリーグ  
吉澤 苑実（広報）Mail : [media@jcleague.jp](mailto:media@jcleague.jp) TEL : 090-7511-7584  
管 洋介（広報）Mail : [yosukesuga0226@gmail.com](mailto:yosukesuga0226@gmail.com)



# JCL TEAM UKYO



## カルボニー選手のコメント

「すべて自分の為に力を尽くしてくれるメンバーに感謝したい。このチームはSUPERだ！今日は自分の力を最大限に発揮することに集中し、そしてみんなのおかげでそれが出来て勝つことが出来た！」

残るステージは2ステージ!!

個人総合2位と2分7秒のタイム差をつけたカルボニー選手  
JCL TEAM UKYOは総力をあげてこれを守りきります!!  
引き続きJCL TEAM UKYOの応援よろしくお願ひします！

## Stage 6 Result TOP3

DST 67.1km Ave 30.5km/h

1 CARBONI Jovanni	JCL TEAM UKYO	2:11'53"
2 GHEBREMEDHIN Kudus	TERENGGANU	+0'21"
3 DYBALL Benjamin	VICTOIR HIROSHIMA	+0'23"

## General classification After Stage6

1 CARBONI Jovanni	JCL TEAM UKYO	2:11'53"
3 DYBALL Benjamin	VICTOIR HIROSHIMA	+2'07"
2 GHEBREMEDHIN Kudus	TERENGGANU	+2'10"
12 EARLE Nathan	JCL TEAM UKYO	+4'18"
19 YAMAMOTO Masaki	JCL TEAM UKYO	+8'39"



JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ：株式会社ジャパンサイクルリーグ  
吉澤 苑実（広報）Mail : [media@jcleague.jp](mailto:media@jcleague.jp) TEL : 090-7511-7584  
管 洋介（広報）Mail : [yosukesuga0226@gmail.com](mailto:yosukesuga0226@gmail.com)

